

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年8月20日

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 氏名 (フリガナ) | 劉 澤成 (リュウ タクセイ) |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土) |
| 大学名 | 名古屋市立大学 |
| 学年 | 5年 |

今回の研修では **Case Presentation** や **PBL** をはじめ、様々なことを学ばせていただくだけでなく、現地の医学生や先生、同級生達と交流することができ、大変充実した日々を過ごすことができました。振り返ってみると、非常に密度の濃い5日間であったなと感じています。主な研修の内容は英語での **PBL** 及び **Case Presentation** の習得、ハワイ大学医学部 (**JABSOM**) や **St. Luke's Clinic** の見学、ハワイで活躍されている先生方の特別講演でした。

PBL や **Case Presentation** では、午前 **Hawaii Tokai International College (HTIC)** でレッスンがあり、午後はハワイ大学に移動して **JABSOM** の学生や指導医の先生とのセッションを行い、集中的に習得することができました。まず、初日に小林先生から、アメリカで働く上で **Case Presentation** がいかに大切であるかのお話を伺ったのが印象的でした。模擬患者の病歴聴取をした後、ハワイの指導医の先生にプレゼンをして直接フィードバックいただけたのはとても良く、繰り返し自分のプレゼンを添削していただく度に、段々とプレゼンテーションの質が上がっていき、重要な情報をわかりやすく簡潔に伝えることができるようになりました。**PBL** はあまり聞き慣れない方もいらっしゃるかもしれませんが、今回の研修では与えられた患者の症状をもとに、鑑別疾患を考え、必要な検査などを議論しました。普段あまり症候別に考えるトレーニングをしていなかったのが、大変良い経験になりました。ハワイ大学医学部では **PBL** の練習を低学年のころからたくさん積むそうです。これらの技能は海外の医療現場で重要になってくると思うので、来年海外実習を予定していた自分にとってとても有意義でした。

JABSOM を訪問した一日目では、**JABSOM** の医学生が大学の中を案内していただき、ハワイの学生生活のことや日本とアメリカの医学教育の違いなどを話しました。なかなか海外の医学部の教育がどんな感じか実際に見る機会はなかったので、とても新鮮でした。また、小林先生に **St. Luke's Clinic** を見学させていただき、アメリカのプライマリ・ケアや医療制度についてのお話を伺いました。海外の大学や病院を見学したのは初めてだったので、とても視野が広がり、今後医学を勉強していく上でのモチベーションにもなりました。ハワイでご活躍されている先生から、未来の医療、アメリカ臨床留学の経験や多様なキャリアのこと、アメリカでレジデンシーをするためにすべき準備など、多岐に渡るお話を聞くことができたのも刺激的でした。

今回の研修に参加されている方の中には、将来海外留学したいという人も多く、それぞれ自分の夢を持った意識の高い仲間に出会えたのも、今回の研修に参加して最も良かったことの一つだと思います。ランチやディナーの休憩時間にはアラモアナやダウンタウンの方をぶらぶら観光して、すぐに打ち解けることができました。今回の研修は朝から晩までレッスンやグループワークの時間があり、かなり集中的なスケジュールでしたが、仲間と協力して乗り越えることができたのはとても良い思い出です。

今回の研修を通して、改めて海外に出て様々なことを経験するわくわくを感じることができ、将来国際的に活躍できる医師になりたいという思いが強くなりました。現在自分のいるコンフォートゾーンを離れ、世界に出て挑戦するということはハードルも高く、大変なこともたくさんあると思います。将来少しでも海外で活躍したいと思っている方は、ぜひ学生の間 1 週間ハワイに来て色々な刺激を受けてみてはいかがでしょうか。きっとたくさんのお出会いや発見があり、これからの人生を変えるようなものにも出会えると思います。最後になりますが、今回の研修のサポートをしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。